

立命館大学環太平洋文明研究センター第23回研究会

2018年12月19日(水) 18:00-19:30

立命館大学衣笠キャンパス以学館4階IG405教室

西日本縄文時代における環境変化と適応 —地理・生態学からのアプローチ—

神松 幸弘

(立命館グローバル・イノベーション研究機構 助教：地理学・生態学)



屋久島の巨杉

災害を含む環境変動には様々な時空間スケールのものがあります。ゆっくりと、あるいは劇的に訪れた環境の変化に対して、縄文人たちの狩猟採集生活や、集落の形成はどのように影響を受けたのでしょうか。環境考古学と生態学の視点から、西日本縄文時代の地形と生態系の復元を通じて人口動態研究との協働を進める研究の展望を発表します。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>